

# 組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：教師教育開発センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b>	<b>●教師教育開発センターを実施主体として総合大学における教員養成の体制を整備し、全学の課程認定学部との協力、教育行政や学校現場と連携した体制は、全国的な教員養成のモデルとして注目され高い評価を得ている。</b>
<p>1. 全学教職コア・カリキュラムの実施 全学教職コア・カリキュラムの実施により、課程認定学部における教員養成の質を保证する。教職への動機付けとなる全学教職オリエンテーション並びに母校訪問の円滑な実施、入門科目としての「教職論」及び教育実習の事前・事後指導科目である「教育実習基礎研究」の充実を図る。</p> <p>2. 教職支援・教職相談の充実 教員採用情報の提供・教師力養成講座の開講等、全学の教職を目指す学生を対象とした幅広い教職支援活動を実施する。</p> <p>3. 理数系教員養成の推進 CST養成拠点構築事業を推進することにより、魅力的な理科授業ができ、さらに他の教員にもそれを伝えられる理科教員(CST)の養成に取り組む。</p>	<p>●1年次の「教職オリエンテーション」・「母校訪問」から4年次の「教育実習」・「教職実践演習」までのコア科目の整備、教職実践演習の履修カルテとしても活用する「教職実践ポートフォリオ」の作成等、教員養成の質を保证する「教職コア・カリキュラム」の実施体制を整えた。さらに、平成23年4月に「教職論ハンドブック」の教科書刊行、教職実践ポートフォリオのWeb化、教職実践演習の試行等、教員養成の質を高める諸事業を順調に進めた。</p> <p>●学生が本学教職課程の理念や教師教育開発センターの役割を理解し、4年間の見通しを持つことを促すために『教職課程履修ハンドブック First Edition』を刊行した。</p> <p>●教職相談室による教員採用に向けた指導や、最新の教育課題について学ぶ「教師力養成講座」を実施した。「教師力養成講座」の受講者は、179名であった。</p> <p>●中国地区で初めて採択されたCST(コア・サイエンス・ティーチャー:中核的理数系教員)養成拠点構築事業について、課程認定を受けている全学の理工系学部および教育委員会との協働により、第一期正規生の選抜を行い、養成プログラムを順調に進めている。年度末には、CST評価委員会を開催し、岡山大学長および理工系学部長(課程認定学部)、岡山県教育長をはじめとする教育委員会関係者による評価・助言を受けた。</p>
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>②-1 目標</b>	<b>●全学及び教育学部の教職コア・カリキュラムの終了ごとに学生対象の意識調査と教職実践ポートフォリオによる自己評価を実施する体制を整え、学生の経年的な変化と成長を捉えるルーティンを確立した。得られた成果については、以下のような方法で公表している。</b>
<p>1. 全学教職コア・カリキュラムの検証とさらなる研究開発の推進 質の高い教員養成教育を目指して、現行の全学教職コア・カリキュラムの検証と研究開発を推進する。</p> <p>2. 教育行政及び教育現場との連携に基づいた調査・研究の実施 大学と教育行政及び教育現場との連携に基づいて、教員養成教育の改善を図る調査研究を計画・実施する。</p>	<p>・本年度刊行した教師教育開発センター紀要第2号に成果を掲載した</p> <p>・桃太郎フォーラムXIVにおいて「岡山大学における教員養成教育改革」と題して発表を行い、全学教職課程改革の実際とその成果と課題を報告した</p> <p>・教師育成プログラムの開発に関する成果を日本教育大学協会研究会において『全学教職課程における1年次プログラム「母校訪問」の取り組みと成果』と題して研究発表を行い、教育大学協会からも高い評価を得た</p> <p>・今年度で卒業/修了する全学教職課程履修者(4年生・大学院生)を対象に進路状況と教員採用試験受験動向を調査し、その結果を全学教職課程運営委員会で報告し課題について協議した</p> <p>●平成25年度から必修化される教職実践演習に対応するため、全学教職課程運営委員会と協働して試行を実施した。</p> <p>●昨年度に引き続き「岡山大学教師教育開発センター紀要第2号」を刊行し、主として教師教育(教員養成教育、現職教育)及び教育実践に関する実践的・理論的研究を公開している。本学附属図書館の「学術成果リポジトリ」への登録はもとより、国立国会図書館にもオンラインジャーナルとして登録した。</p> <p>●教職実践演習の到達目標を達成するために、中教審審申に準拠して作成したポートフォリオは、岡山大学独自の教育実践力を構成する4つの力とその下位の4項目ごとに、1年次から4年次の教育実習前後の目標到達の確認指標を提示した履修カルテ例として、文部科学省初等中等教育局教職員課から高い評価を得ており、多くの他大学から訪問調査を受けた。</p> <p>●教育行政及び教育現場との強い連携については全国的に注目されており、教員研修センター理事長、理事等の訪問調査を受けた。</p>
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>③センター業務領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b>	<b>●本年度は、最新の教育課題について学ぶ「教師力養成講座」を、現役校長等を講師として計6回実施した。また、教職相談室が教職支援活動の一環として実施している教員採用に向けた指導を受けた学生数は約4000名(延べ数)であった。</b>
<p>1. 教職相談室による教職支援事業の実施 学校教育の直面している教育課題と現状について理解を深める研修会等を実施する。また、教員採用試験情報の提供、論作文の添削、模擬面接・模擬授業指導などの教職支援活動を行う。</p> <p>2. 全学連携の推進 「全学教職課程運営委員会」等により、各教職課程認定学部と協力して、質の高い教員養成に向けた連携を推進する。</p> <p>3. CST養成拠点構築事業の実施 CST養成のための特別プログラムを計画・実施する。</p>	<p>●全学教職課程運営委員会の開催により、全課程認定学部の連携が強化され、質の高い教員養成システムが整備されている。運営委員会規程についても、見直しを諮り、専門委員会を廃止して効率化・実質化を行い体制をより一層整備した。</p> <p>●平成23年度特別経費「教員の資質向上」に寄与する「大学と学校・教育委員会の協働の実現」について、年度当初にキックオフミーティング、年度末には「先進的教員養成プロジェクト」フォーラムを文部科学省・教育委員会・学校等から多数の参加を得て実施した。</p> <p>●教師教育開発センターに「理数系教員養成事業部門」を設置し、理工系学部との連携のもと、CST養成のための特別プログラムを計画・実施している。</p> <p>●教師教育開発センター開設から2年目を迎え、広報活動を活発に実施した。ホームページのリニューアルをしたこともあり、アクセス件数は90万件を超えており、多くの検索ブラウザで「教師教育開発」のトップ項目となっている。また、センターの活動を紹介するパンフレットを改訂し、設立の趣旨及び部門別の活動の概略に加え、新たに設立した理数系教員養成事業部門およびCST事業の概要を追記し、さらに東山ランチの紹介、全学教職課程を卒業し教職に就いたばかりの先輩教員の紹介記事を掲載した。</p>
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	

④社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
<p>④-1 目標</p> <p>1. 学生ボランティアやインターンシップの充実のための連携協力の推進センターのスクール・ボランティア・ビューローを中心に、教育委員会・学校教育現場等と連携協力し、学校支援ボランティアや教職実践インターンシップなどの活動を行う。</p> <p>2. 学校改善に資する調査研究の実施</p> <p>大学と教育行政及び教育現場との連携に基づいて、具体的な学校改善に資する調査研究を計画・実施する。</p>	<p>●「スクールボランティアビューロー」では、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会をはじめとする地域の教育委員会等の教育行政および地域の学校・園と連携することにより、学校支援ボランティアやインターンシップ事業を一元的に管理できるようにしている。学校支援ボランティア証の発行、学校支援ボランティアの単位化を実施した。平成23年度は、研修会参加学生数は349名にのぼった。この事業は学校現場のニーズに応えるとともに、学生にとっては現場での実践力を養う場にもなり、双方にとって有効に機能している。</p> <p>●教育学部・教育学研究科・教師教育開発センターと岡山県および岡山市教育委員会の3者による合同連携協力会議を11月に開催した。岡山県教育次長、岡山市教育長らの出席をいただき、教職大学院の評価と課題、教員養成に関する事項、教員研修に関する事項等、教育の充実・発展に寄与する方策についてまとめた。さらに、連携に関する包括協定について、連携体制の強化と協力事業の活性化のために改訂を行い調印した。</p>
<p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>●平成23年度は、岡山県および岡山市教育委員会との連携事業として、CST事業、特別経費プロジェクト事業を実施している。その他にも岡山県との連携事業は13件、岡山市とは7件であり、具体的な学校改善に資する調査研究を実施している。</p> <p>●CSTプログラムについて、岡山県教委・岡山市教委・倉敷市教委との連携事業を推進した。</p>
<p><b>【総括記述欄】</b></p>	
<p>総合大学における特色ある教員養成の質を保証し、かつこれを高めるために、教育行政・学校現場と連携した全学的取組体制を整備するとともに、全学教職コア・カリキュラムを構築しその運用を進めている。これらの取り組みは、理数系教員養成拠点事業ならびに平成23年度特別経費等の採択を受けて先進的取組として発展している。次年度以降は、各事業の具体化と改善を一層推進するとともに、学校・教育行政との協働拠点を形成し学校改善に取り組む体制整備を行う予定である。</p>	